



第19回 総会 報告

第19回総会が、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う緊急事態宣言が首都圏に発令されるなか、9月12日(日)新宿区市谷のJICA 地球ひろば小会議室にて感染対策を徹底して7名の会場参加者に115名の書面参加を得て定足数を満たし、有効に開催されました。会場参加者の互選で正会員の斎藤利治氏が議長に選出され、議事に入りました。

古海正子理事、伊藤莞爾理事から2020年度の事業報告及び決算報告が示され、大橋典子監事から監査報告があり、いずれも承

認されました。続いて西澤逸実理事、伊藤莞爾理事から、2021年度の事業計画及び事業予算が示され、いずれも承認されました。



(事務局長 西澤 逸実) <2年続きの少人数による総会風景>

2020年度Iメイトオブ・ザ・イヤーは奥山正昭さんに！

その年に最も「Iメイト交流に貢献した会員」に授与されるIメイトオブ・ザ・イヤーの表彰は、2005年から始まり、奥山正昭さんは17人目の受賞者です。今年は初めてオンライン表彰式となり、加納啓良理事長がお祝いの言葉とともに表彰状を読み上げました。

「入会のきっかけは妻の誘いだった。アジ風の提唱している多様性を尊重する理念にたいへん強く共感し、自分の子供たちより若いIメイト学生を通じて異文化に触れ、また日本を紹介する度に自分の成長を実感し、交流の広がりをとても楽しんでいる」と

受賞の喜びを話す奥山さんは、ボランティアとしてスポーツの国際大会や来日する観光客の通訳もされています。何事にも前向きで、明るく、中国語も堪能で、観光地を訪れた中国人のグループに、あっという間に囲まれて、急遽観光ガイドをされた姿も拝見したことがあります。毎年一歳ずつ若返っていると感じるのと、今後、ますます元気に活躍し、Iメイト交流を楽しんで頂きたいと願っています。(理事 古海 正子)



吉開 章氏 講演要旨



オンライン講演会に臨む
吉開氏

総会後にオンラインで行われた講演会は、50名以上の会員と交流校の学生などが参加し、チャン・マイ・フォンさんの司会で加納啓良理事長の挨拶の後行われました。

吉開章氏は電通ダイバーシティ・ラボの研究員であり、且つ「やさしい日本語」を通して全国の自治体への普及を目指しておられます。以下は当日の講演要旨です。

吉開氏は福岡県柳川市出身、同市は九州でも屈指の観光地であるが、地域的にも台湾や香港、中国などからの観光客が多い。地方都市に観光に来る観光客の多くは英語を母語とする国ではなく、近隣のアジアからの観光客が多く、その中には簡単な日本語なら理解できる人が一人二人はいると考えた。やさしい日本語で対応すれば、意疎疎通ができるのではと思いついた。

令和2年末の在留外国人は3百万人弱であるが、中国・ベトナム・韓国・フィリピンなどからが多く、英語が共通語とは言えない。88%の在留外国人がなんらかの日本語での会話が可能であるという調査もある。現存する言語の数は数千種類と、国の数よりはるかに多い。すべての言語に対応することが難しいのであれば、やさしい日本語を用いることで在留外国人とコミュニケーションを図るのも一つの手である。現在、日本語指導が必要な児童生徒は5万人いるといわれるが、その内母国語が英語の人数は2.7%しかない。この児童生徒やその親たちに「外国人だから英語が判るよね」とはとても言えない。但し、人命や人権に関すること

については、母国語による対応が求められる。

「易しい」と「優しい」の両方の意味を持つ「やさしい日本語」を使いこなすために、「わけて言う」「せりりして言う」「だいたんに言う」を「ワセダ式」と名付けた。また、「だいたんに言う」は「みじかく言う」という事であり、これに「はっきり言う」「さいごまで言う」を加えて「ハサミの法則」とした。「ハサミの法則」とは一文を短くすれば、必ず分かり易くなる、ということ。即ち「握り寿司を1個ずつ握り食べてもらう」というイメージで、一口で食べられ、食べた次を出す。これは優しさである。例えば大阪に住んでいる友人と2年前に渋谷でお好み焼きを食べたのですが、友人は「こんなん、自分で作った方が美味しいわ」と言って、去年私が大阪に行ったときにお好み焼きのホームパーティをしてくれました。

これを「ハサミの法則」で言い換えると

- ・私の友達は大阪に住んでいます。
- ・私と友達は、2年前に渋谷に行きました。
- ・私と友達は、お好み焼きを食べました。
- ・でも友達は「これは美味しくないです。私が作る方がおいしいです。」と言いました。
- ・去年、私は大阪に行きました。
- ・友達は、私のためにお好み焼きのホームパーティをしてくれました。

「やさしい日本語」を使うということは、日本の社会全体に「やさしい日本語」を含む多言語対応を拡げ、多文化共生社会をつくることである。

(理事 伊藤 莞爾)

役員人事

2021年7月の理事会で、理事の斎藤利治さんの退任が承認されました。また、事務局長は古海正子さんに代わって、西澤逸実さんが就任しました。

ハノイ貿易大学日本語学部が「国際交流基金賞」を受賞

国際交流基金が73年から実施している「国際交流基金賞」の21年度受賞者に、貿易大学日本語学部が選ばれました。ハノイ国家大学外国語大学日本語文化学部、ハノイ大学日本語学部と共に合同での受賞です。ベトナムでは初めての受賞となります。他

には映画監督の是枝裕和氏、笙奏者の宮田まゆみ氏などが受賞されています。

授賞式は10月20日に東京の会場とオンラインでのハイブリット方式で開催され、西澤逸実事務局長が参加する予定です。

Iメイト交流勉強会 6月26日

昨年に続いてIメイト交流勉強会は今年もオンラインでの開催となりました。

参加者25名。今年は3月に行ったアンケートに書かれた学生と会員からの要望を満たすべく、盛りだくさんの企画となりました。以下、プログラム順です。



＜Iメイト交流担当から＞担当の奥山がIメイト交流の概要、各大学の交流人数、Iメイト交流規約と今年の変更点について説明しました。

＜自己紹介＞厳格なタイムキーパーのもとで一人1分。

＜おしゃべりの場の構想＞担当は武田高理事。この企画は学生から会話の練習をしたいという希望を聞いて、学生が自由に話せる場を作ろうというもので、まずはタマサート大学から始め、順調にいけば他の大学に広げる予定であることを説明しました。

＜会話練習のコツ＞すでにSNSを使って学生と会話をしている会員に、会話練習のコツを聞きました。テーマを決めておく、練習時間を決めておく、学生のレベルに合わせたやさしい日本語をつかう、慣用句などではできるだけ使わない、日本人がしゃべりすぎ

ないようにするなど、経験者ならではのアドバイスがたくさんありました。

＜交流上の悩み相談＞交流が止まってしまった、若い人との話題作りなどに困っているなど、多くの人に共通の悩みについて、Iメイト交流の長い経験者に質疑応答の形で答えていただきました。またメールを送るタイミング、メールを書くときに気をつけていることなど、交流に役立つ話を聞きました。長く続けるためには、やはり気配りや忍耐も必要であることを確認しました。

＜添削ワークショップ＞アンケートで一番希望が多かった企画です。小グループに分かれて、実際の学生のメール文を使い、自分なりの添削をしながら、他の人の添削事例をきき、学生の意欲を下げない直し方を探りました。添削で気をつけることは、相手のレベルを考えながら、日本語を母語としている人から見て不自然な表現、意味がわからない表現、誤解される表現を直してあげることです。今回は時間的にあまり余裕がなくて、参加者の皆さんには不満が残ったようですが、次回の勉強会での課題としました。

＜SNSの使い方講習＞希望者を対象に行いました。Zoom、Wechat、Lineの設定から始めて、基本的な使い方、便利な機能の使い方を実際に携帯電話やパソコンを使いながら説明しました。SNSを駆使して、学生たちと会話を楽しんでもらえたら幸いです。今年も9月から11月にかけて、新しくIメイト交流のマッチングを行います。

今回の勉強会が新しい学生との交流に役立つことを願っています。

(Iメイト交流担当理事 奥山 寿子)

「おしゃべりの場(仮称*)」がスタートしました！

コロナ禍により、アジ風の活動はZoomを利用した各種交流活動にシフトしています。また、SNSによる対面での1対1の交流を行う会員も増えています。

そんな中、アンケートや交流会で学生たちから「日本人との会話」の機会が欲しいという意見が事務局に寄せられました。大学の授業は読み書きが中心で、日本語会話、特に日本人と直接会話する機会は少ないのが実情です。また、たくさんの学生が一緒では、教師と会話を練習する時間も短くなりがちです。

そこで、タマサート大学の学生有志の参加を得て「おしゃべりの場」が誕生し、7月から試行的に活動をはじめました。その名の通り学生と会員が楽しく集うカジュアルな会話の場です。これまで、Zoomで7月、8月、9月と3回開催しました。学生手作りのゲームも交えて、互いの表情が見え、話しやすい雰囲気での開催としています。リラックスした空間で日本人がどのように会話するのか、日本人のユーモアはどんなものかなどは、学生にとっても楽しい体験でしょう。また、事前に会話のテーマを決めず、その場での会話を楽しむことで、学生にとっても参加会員にとっても負担感が少なく、継続しやすくなるようにと考えています。課題は、学生と日本人の人数のバランスをいかにとるかということです。ほぼ同数程度が会話は弾みやすいようです。Iメイト同士の参加を中心としていくのがよいかと考えています。

今後、学生が自由で自主的に活動を継続できるよう試行錯誤を

しながら、タマサート大学での活動を進め、さらに他大学等へも展開できればと考えています。

皆様のご理解、ご支援をよろしくお願いいたします。

*この名前は仮称です。ご提案がありましたら事務局までお知らせください。

(おしゃべりの場担当理事 武田 高)

「おしゃべりの場」の感想

こんにちは、浮田さんのIメイトのブームと申します。私は大学に入学してから、文法や文化など様々な日本について学んでいます。そうすると、日本語で話したく感じるようになります。しかし、たとえ日本語で話したいと思っても、実際に日本語で話せる機会がありません。だから、「おしゃべりの場」という場所ができて、Iメイトと日本人と大学の友達と一緒に日本語で色々な話題を自由に話せると聞いて嬉しかったです。そして、タサニー先生が紹介して下さった武田さんのおかげで素晴らしい部屋ができて、良い経験も得ました。三回の「おしゃべりの場」に参加して、日本語で話すのを楽しむだけではなく、日本人もとても優しく、緊張しないで色々な知らなかった日本のことを学んで楽しかったです。できれば、これからももっとIメイトの日本人のメンバーと一緒にこんな楽しい活動をしていきたいです。

(タマサート大学3年 タンチャノック・ラーuppアナ)

*写真はP4のIメイト交流を参照

アジア風奨学生の卒業後の報告

第三回アジア風奨学生の王雋淇さん（清華大学元 I メイト）と第四回奨学生のドウ・アイン・トウさん（貿易大学元 I メイト）が大学院卒業後の様子を知らせてくれました。アジアの国々の懸け橋となる人材を育てる目標の、アジア風奨学生にぜひご応募ください。第五回生の応募を期待しています。詳細はホームページの「アジア風奨学基金」をご覧ください。（奨学金担当理事 上 高子）

帰国後の生活の報告

皆さんのおかげで、今年の3月に無事に一橋大・修士課程を修了し、今は帰国して、深圳にあるインターネット企業でゲーム業務の仕事をしています。自分が所属している部門は主に海外のゲームの導入と発売や、海外の有名 IP（主にアニメや小説など）のゲーム化と発売するなどの役割を果たしています。自分はまだ直接に日本側の担当者ややり取りする機会はないですが、部門全体は日本の企業との交流が多いです。仕事の上で、両国の仕事の習慣には大きな違いが存在しますが、お互いの立場を理解できてこそ、交流がうまく進んでいけると感じています

（清華大学元 I メイト学生 王雋淇）

日本で助けられながら働いています

神戸大大学院卒業後、賛助会員になり、現在京都市にある会社

で働いています。経理総務部に配属され、間もなく1年になります。経理総務部では様々な専門知識が必要で、1日、1か月、1年間、定められたスケジュールに沿って訓練されています。お金の取り扱い、税務、労務、社内環境の改善などバックオフィスの仕事は同じ業務の繰り返しですから、営業・マーケティング広告・デザインなどと比べちょっと地味なイメージがあると思われたのですが、注意深さや用心深さがより訓練されました。

大学で学んだ簿記も本当に助かっています。勘定科目の意味や処理は基本的に理解していたので早く仕事に慣れましたが、税務や労務のことは少し複雑で日本の法律に関係する問題なので経験のある先輩から指導を受けています。部内で気軽に相談できるので、外国人で新人の私はいつも優しく先輩に教えてもらっており、とてもありがたいです。

（貿易大学元 I メイト学生 ドウ・アイン・トウ）



架け橋グループ オンライン交流会を開催しました（2021年9月4日）

架け橋グループは、東京工業大学と清華大学の大学院合同プログラムで、清華大学から留学してくる大学院生と I メイト交流する活動で、11年前にスタートしました。彼らは日本に1年間留学しますが、現在は5名ずつ2学年分計10名の学生と、それぞれ訪日1年前からの I メイト交流が進められています。



＜最上段左から2人目が筆者＞

つ2学年分計

オンライン交流会は、コロナ禍で日本への留学が棚上げになっている状況に対し、交流の広がり期待して開催されました。新学期的忙しい時期でしたが、6名の学生が参加、日本人 I メイトを含め計17名の参加でした。2時間の会合では、学生からの質問を受けてフリートーク形式で、日本のおじぎは面白い、冬は寒いのか、80年代日本シティポップがブーム、などの話題について、わいわい楽しく情報を交換しました。清華大学大学院側で I メイト交流の事務局を担当してもらっている王亜民さんに要点の通訳に入ってもらい、コミュニケーションを円滑に進めることができました。お互いの顔がよく見えるようになった交流会でした。

（架け橋グループコーディネーター 浮田 輝彦）



会員紹介

稲村 由佳里さん

■ 稲村さんはこれまでにいろいろ海外とのお付き合いがおりになったそうですが、まずはそのあたりからお聞かせください。

● はい、実は前に医療機器メーカーで15年ほど海外担当をしておりました。その関係で海外出張にも海外旅行にも随分参りました。プライベートではホストファミリーとしてフランスやスペインの学生を毎年受け入れていました。今は、日本語ボランティアとしていろいろな国の方と交流しています。

■ なるほど、それでアジア風にも興味を持たれたのですね。これまで何人の I メイトと交流されましたか？思い出に残るエピソードは？

● これまで3人です。その中の一人パジャジャラン大学のパニさんは地元の観光地ガルトの紹介パンフレットを作られていたのですが、その添削のお手伝いをさせて頂きました。とても自然な言葉遣いで書かれていて、その土地の景色や街の雰囲気、料理の香りも想像できるような表現で感心しました。私もぜひ行って

みたいと思っています。

■ 今後どのような I メイト交流を考えていますか？

● 前に目黒川の桜吹雪の写真を I メイト達に送ったことがあるのですが、皆さんとても喜んで下さいました。これからもおせち料理、ひな祭り、夏祭り、雪景色など日本の四季を感じられる写真を題材にして交流を深めたいと思っています。＊72号参照

■ これからのアジア風に対して何かご提言をいただけますか？

● 私は幸せなことに日本語ボランティアの仲間だった鈴木一美さんのご紹介でアジア風に巡り合うことができましたが、この素晴らしいアジア風の存在と活動をもっと多くの方に知っていただきたいです。今はコロナ禍で実際にお会いする機会は少ないですが、Zoomなどでも十分楽しく交流できます。様々な SNS を駆使すれば、潜在的な支援者をもっともっと発掘することが出来る筈で、そのような仕組み作りに微力でも協力できれば嬉しいと考えています。

インタビュー：園田 成和





紅葉間近の良い季節となりましたが、まだまだ新型コロナウイルスが予断を許さない状況です。タイでも状況は同様であり、タマサート大学でも大きな影響を受けているようです。留学の延期・中止を余儀なくされ、オンライン授業ばかりで学習意欲に影響を受けている学生もいるようです。Iメイトの皆さんの激励が励みになると思います。宜しくお願いします。今回は、浮田さんとタンチャノック・ラップアナ（ブーム）さん、古畑さんとチャヤーナン・タナナクルさんの二組に登場お願いしました。

(タマサート大学コーディネーター 富平 茂)

浮田輝彦さんと

タンチャノック・ラップアナさんの交流

浮田さん → ブームさん

2021年8月1日



ブームさん：こんにちは。元気ですか？日本は暑くなってきました。連日 30℃以上の日が続いています。タイもやはり暑いでしょうね。▼コロナは、日本でも多く広がっています。全国で、毎日1万人を超える感染者（かんせんしゃ）が報告されています。タイも増えてきたようなので、心配です。ブームさんは大丈夫ですか？

ブームさん → 浮田さん

8月3日

私は元気です！▼タイには今もとても暑いです。（一年中ですけど）▼来週大学生の夏休みが終わって新学期が始めます。はい、私は3年生になります！パチパチパチ▼毎日1万人を超える感染者が報告されているのは大変ですね。タイもコロナ状況がすごく悪いです。感染者や死んだ人が毎日増えています。泣▼浮田さんは気をつけてください。

浮田さん → ブームさん

8月14日

こんにちは。元気ですか？私は暑さにまけずに元気にやっています！▼日本では、オリンピックが終わって、「お盆（おぼん）」がやってきました。「お盆」は先祖（せんぞ）の霊（れい）が家に帰ってきて、我々と一緒に過ごすと言われています。都会で仕事をしている人も故郷に帰って、お墓（はか）参り（まいり）をする人も多いです。

ブームさん → 浮田さん

8月16日

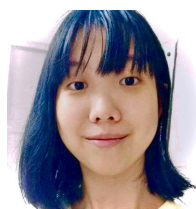


こんばんは。私は元気です。▼お盆に似てる祭りはタイにもあります。チェンメンと言われている。違うところがあります。タイのチェンメンは先祖の霊が家に帰ってきて、家族と一緒に過ごしますが、送り帰すことがないそうです。▼今日は偶然に家の近くの市場で見かけた名産「カオラム」を食べました。写真を送ります！

古畑仁一さんとチャヤーナン・タナナクルさんの交流

チャヤーナンさん → 古畑さん

2021年8月1日



私はシノファームワクチンを接種しました。副作用がありませんでした。タイでは感染者がどんどん増えてきて、病院のベッドが足りなくなりました。ちょっと大変です。

卒業した後、私は研究生になりたいので、来年、また文部科学省奨学金留学生の申請書類を提出しようと思っています。今年は研究の計画や日本語能力試験を準備しています。今度は合格できたら嬉しいですね。あこがれの大学の文学部に入りたいです。

古畑さん → チャヤーナンさん

8月5日



ワクチンを接種することができて良かったです。少し安心できますね。

文科省の奨学金留学生に応募することに決めましたか！ その大学は日本でも有数の大学です。文学部は特に入試の偏差値が高いです。研究テーマはすでに決めていますか？私にサポートできることがあれば遠慮なくおしらせください。

チャヤーナンさん → 古畑さん

8月28日

今年7月の JLPT(日本語能力試験) が中止になったので受験料が返金され、それを12月の JLPT受験料にしました。また中止されるかどうか分かりませんが準備しています。

私のインターンシップが終わりました。私の主な仕事は Proofreading(翻訳した作品の正しさをチェックする立場)でした。翻訳者の仕事を学ぶ機会がなかったのですが楽しかったです。それに、Proofreadingした小説も全国の本屋に売れて嬉しかったです。いつか翻訳者になりたいと思います。

古畑さん → チャヤーナンさん

8月30日

日本ではコロナ感染者と重症者が毎日のように増えています。タイでは感染者が減少しつつあるようですが、日本語能力試験などは延長になったのですね。

12月には受験できるよう祈っています。東野圭吾のタイ語訳の校正 (Proofreading)を行ったのですか。すごいですね！翻訳本も売れて苦勞の甲斐がありましたね。チャヤーナンさんの前途は洋々です。目標達成を目指してがんばってください。

今後の行事予定

* 詳細はHPを参照

10月-11月

Iメイト交流のマッチング
(4校と1グループ)

10月31日

パジャジャラン大学
オンラインスピーチコンテスト

11月

ファシリテーター講習会

・・・編集後記・・・

「よき人のよしとよく見てよしと言ひし吉野よく見よよき人よく見つ」と天武天皇が吉野の美しさを称えた万葉歌に、淑、良、吉、好、芳のよしと読める漢字が万葉仮名と当てられるが善がないのは、善はすべてのよさを含むからだ、との中西進氏の文章を読み、Iメイトのメール文を思い出した。

「コロナ感染が拡大してやばいです」のメールに「やばいを使わない文章が綺麗ですよ」と伝えたいのだが、イイイイ大人だって会話では結構使っているし、と逡巡することしきり。実は最近の国語辞典には「やばい」も記載されているが項目の最後に「品格」という名の注釈欄があるという。万葉歌には及ばないにしても「品格欄」は美しい日本語を伝える励みになった。

吉開章氏の講演でも『やさしい日本語』は「易しい」と相手を受け止める「優しい」の2つの意味があると聞いたばかりで、相手に添った交流をしたいと思っている。

(原谷 洋美)